

成人指導といえ、考えなければわかない。婦人を除いた成人指導は「おや、じ教育」だろう。などと駄じやれを飛ばしているわけにもいかない。男も女も含めて成人指導の場は何といってもPTAだ。そのPTAは一般世人にどう理解されているだろうか。今くわしくこのことを問題にしているわけにはいかない。いま問題にするのは、婦人会といえは磐石だったものが「農協婦人部」ができた、また職場をもっている女の人たちのグループによって揺すぶられ、反省の時期に入っているということである。

ことに町村合併後、大世帯になる傾向

第五章 保 健 体 育

児童生徒の健康を確保し、体位体力の向上を図り、教職員の健康を保持増進し、さらに社会人に対して体育運動を通して、健全なレクリエーションを与えていくことの重要性は、今さら云々する必要はないが、保健体育課においては、これらの人間として基本的に必要なものに対して、それぞれ、その向上発展を図ろうとするものであるが、それだけに、行うべき範囲も広く、問題点も多い。

まず、児童生徒の体位の現状について検討してみると、文部省発行の身体検査統計をみると、全国的にみて、身長・体重・胸囲いずれも低位にあり、さらに環境的条件を同じくする東北各県

に耐えて、婦人会の小グループ活動を育てようとする婦人自身の行為は、前述の青年たちの活動ととも刮目しなければならぬ。来年度の努力目標は、したがってこれらの活動をどう盛り上げていくか、というところに指向されることは当然である。地方の公民館や教育委員会事務局の努力も、したがって容易ではなからうと思われる。だが、力をあわせて、こういう活動の芽生えを盛り上げていきたいものである。

補記

と比較してみても、余りよい結果になっていない。特に本県の場合市部の児童生徒と、郡部のそれとで著しい差が認められる。これは本県農山村の児童生徒の向上について一層努力しなければならぬことを物語っている。

体力の現状については、今これを比較する正確な資料はないが、各種競技会などのレベルをとおして判断するに、上昇線を辿ってはいるが、楽観を許さないものがある。この点については、単にわが県だけでなく、日本全体の問題として、今次の第十六回メルボルンオリンピック大会におけるわが国選手の活動状況は、よい反省の資料となるであろう。すなわ

努力目標をかかげ、それへの接近をはかってきたものの、依然として残された問題がある。

- (1) 勤労青年教育
 - (2) 関係各機関との提携
 - (3) PTA
 - (4) 社会教育施設の充実
 - (5) 指導者
- などであり、これらを取りあげて一節を設けてみたものの、紙面の都合で削除せざるを得なくなった。あるいは、ために、一貫せぬ報告となったかも知れぬことをおそれ加え記しておく。

ち水泳は別として、体重の制限下に行われる重量拳・レスリングあるいは、身体支配力が主となる体操競技等においては、優秀な成績を取めているが、地力を發揮して戦う競技については、陸上競技を始めとして、いずれも惨敗に終わっている。

わが国にとって、将来の発展を、双肩にならっている青年層の代表者が、世界のレベルから引き離されているようでは、その下部組織の状況もうかがわれ、ここにもまた保健体育をとおして今後大いに努力せねばならぬ点が認められる。体位の向上・体力の強化・ハードトレーニングこれはわが国としてもわが

県としても、世界の諸国に伍して今後の発展を期する上に、理くつをぬきにして強化しなければならぬ大きな教育の一方である。

さらに体位や体力の強化といっても、これは一朝一夕にどうにもなる問題ではない。科学的に合理的に計画的に施策を講じなければ、その発展は期せられない。この点から、国民の栄養問題、したがってわが県の栄養問題が大きく、浮び上ってくるであろう。すなわち学校給食の普及充実が大きな問題となってくる。

本県における学校給食の現状をみるにその普及率はやはり向上しているが他県に比して、あまりよいとは言えない。特に本県の場合は、農村における普及率がよくない。この点なども、本県学校教育面において、基礎学力低下の問題と同様将来の県民発展の上から十分考慮しなければならぬ問題であろう。

保健体育課としては、毎年これらの諸問題ととりくんで、それぞれ施策を講じてきたが、過去一ヶ年を反省すると、学校体育面については、わが国の現状に即応して、改訂されつつある保健体育の学習指導要領の線に沿って、着々手を打ち、教師の指導の心構えや、態度等においても、あるいは指導法などにおいても次第にしっかりしてきて、軌道に乗り特に研究指定校などにおいては、相当高いレベルに達している現状である。なお集団行動等においても、昨年県教委として現場に基準を示した結果として、大分、向上しつつあることは、本当に嬉し